

自然薯畑、今年も変りました



自然薯の花

昨年自然薯は全体的に大きなイモが多く良かったのですが、先端が枝分かれする変形のイモが結構ありました(栽培容器から外れた失敗作もたくさん)。水はけが少し悪いのが原因のようです。今

年はもっと水はけの良さそうな畑を探し、友人の梨農家の光居さんが借りている畑(自然薯も作ってます)の隣を借りることになりました。家から車で15分ほどの山



掘り取った自然薯

ト
ピ
ツ
ク
ア

の中で、少し遠くて何かと不便になりましたが日当たりもよく、隣の畑でも地主さんや近所のおばちゃん達が野菜を作ってます。

今年も種芋250本を植付けました。3月から4月にかけて雨が多く、畑の準備、栽培容器の埋設、種芋の植付けなどが半月程遅れたので、後の作業がピオーネと一部重なりだいたい焦りました。ツルと葉はスクスクと育ち、旺盛に茂っているのですが、きっと良いイモが出来ることでしょうか…？。



自然薯畑

今年は記録的な猛暑と言われますが、それは都会だけの話ではありません。私達の暮らす緑深い高原地帯でも、やっぱり暑い。暑すぎる。例年はほとんど出番のないエアコンは今年はなんと5回も！家にいるよい畑のぶどう棚の下で、時折こぼりびのように吹いてくれる風に当たっている方が涼しいような気がします。

さて、去年はぶどうにさされてエライ目にあいましたが、今年は晴れの日が多かったせいで日焼けしすぎて、プールでこれか



い焼けた夏休みの小学生のようになってしまいました。トホホ…。でも、こんなに暑くても、私なりの袋かけの儀式だけは怠りません。

一房一房、ピオーネを袋に入れ、針金できゅっと口を結ぶ時、「大粒で、甘くて、黒くなって9月に会おう。みんなに美味しい！と言ってもらえやで」と心でつぶやきます。時々、ズボラして「大・甘・黒」になっている時もありましたが…。この儀式が終わって初めて、ぶどうの仕事も一段落です。(kiyoko)



秋の宇甘溪



尾原の一本ザクラ(吉備中央町重要指定文化財)



収穫を待つ緑のじゅうたん

